

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成30年8月8日

【四半期会計期間】 第65期第1四半期(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

【会社名】 株式会社南陽

【英訳名】 NANYO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 武内英一郎

【本店の所在の場所】 福岡市博多区博多駅前3丁目19番8号

【電話番号】 (092)472-7331(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼経営企画室長 篠崎学

【最寄りの連絡場所】 福岡市博多区博多駅前3丁目19番8号

【電話番号】 (092)472-7331(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼経営企画室長 篠崎学

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神2丁目14番2号)  
株式会社南陽北関東支店  
(埼玉県熊谷市本町2丁目84番地 薬剤師会館1階)  
株式会社南陽東京支店  
(東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番16号  
第8センタープラザ8階)  
株式会社南陽関西支店  
(兵庫県西宮市甲子園七番町17番28号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第64期	第65期	第64期
		第1四半期 連結累計期間	第1四半期 連結累計期間	第64期
		自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(百万円)	8,798	9,165	36,178
経常利益	(百万円)	654	748	2,551
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	421	494	1,675
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	482	325	2,047
純資産額	(百万円)	14,980	16,431	16,449
総資産額	(百万円)	30,496	31,839	33,426
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	66.19	77.73	263.15
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	49.1	51.6	49.2

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の影響が懸念されたものの、世界経済は回復傾向が続くとともに、雇用や所得環境においても改善の動きが続きました。また、企業の生産活動においても活発な増産投資が継続するなど、わが国経済は緩やかな回復基調が続きました。

##### a. 財政状態

資産は、前連結会計年度に比べ1,586百万円減少（4.7%減）し、31,839百万円となりました。増減の主な内容は、電子記録債権が593百万円増加したものの、現金及び預金が1,254百万円、受取手形及び売掛金が310百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度に比べ1,568百万円減少（9.2%減）し、15,408百万円となりました。増減の主な内容は、支払手形及び買掛金が1,008百万円、未払法人税等が421百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度に比べ18百万円減少（0.1%減）し、16,431百万円となりました。増減の主な内容は、利益剰余金が151百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金が138百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は51.6%と前連結会計年度に比べ2.4ポイント上昇いたしました。

##### b. 経営成績

当社グループの連結業績につきましては、概ね計画通りに推移し、売上高は9,165百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益は715百万円（前年同期比20.2%増）、経常利益は748百万円（前年同期比14.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は494百万円（前年同期比17.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

##### 建設機械事業

建設機械事業におきましては、九州北部豪雨、九州地区への台風上陸など度重なる災害の発生に伴う復旧工事が継続して実施される中、販売部門においては、好調が続く地域への販売強化に努めるとともに、社会インフラの補修に関連する商品の販売強化にも努めてまいりました。また、レンタル部門においては、災害等により需要が高まっている地域への営業強化を実施し、レンタル機械の稼働率向上に努めてまいりました。この結果、売上高は3,503百万円（前年同期比13.5%増）、セグメント利益は436百万円（前年同期比31.9%増）となりました。

##### 産業機器事業

産業機器事業におきましては、世界経済の回復に伴う企業の好調な生産活動を受けて、ロボット関連業界や半導体関連業界を中心に良好な環境の中で推移する中、生産部品・消耗部品の販売強化に努めるとともに、検査工程等で使用される設備機械の販売強化にも努めてまいりました。しかしながら、生産部品の需給が逼迫したことから、設備機械の販売において納期への影響を受けたこと等により、売上高は5,555百万円（前年同期比0.8%減）となりました。その一方で、生産部品・消耗部品の販売が好調に推移し、利益率が向上したことにより、セグメント利益は371百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

#### 碎石事業

碎石事業におきましては、事業を展開している地域においては、公共工事は被災地に対する災害復旧工事が優先され厳しい状況が続く中、製造コストの価格転嫁に向けて販売単価の交渉に努めるとともに、民間企業への営業強化による中小規模の工事の受注獲得に努めてまいりました。しかしながら、事業拠点近隣の公共工事並びに安定した需要が見込まれる生コン向けの販売が減少したことにより、売上高は106百万円（前年同期比5.8%減）、セグメント利益は11百万円（前年同期比13.9%減）となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,268,000
計	19,268,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,615,070	6,615,070	東京証券取引所(市場第二部) 福岡証券取引所	単元株式数は、 100株であります。
計	6,615,070	6,615,070		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日		6,615,070		1,181		1,015

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 247,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,365,000	63,650	
単元未満株式	普通株式 2,770		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	6,615,070		
総株主の議決権		63,650	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式95株が含まれております。  
2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社南陽	福岡市博多区博多駅 前3丁目19-8	247,300		247,300	3.74
計		247,300		247,300	3.74

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,329	4,074
受取手形及び売掛金	11,198	10,887
電子記録債権	2,154	2,748
貸貸料等未収入金	704	579
商品及び製品	2,029	2,225
仕掛品	82	107
原材料及び貯蔵品	8	11
その他	894	598
貸倒引当金	163	160
流動資産合計	22,238	21,072
固定資産		
有形固定資産		
貸与資産(純額)	6,112	5,956
その他(純額)	2,375	2,375
有形固定資産合計	8,488	8,332
無形固定資産		
のれん	74	69
その他	48	42
無形固定資産合計	122	112
投資その他の資産		
投資有価証券	2,251	2,016
その他	330	312
貸倒引当金	8	8
投資その他の資産合計	2,574	2,320
固定資産合計	11,185	10,765
繰延資産		
開発費	2	2
繰延資産合計	2	2
資産合計	33,426	31,839

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,209	10,201
短期借入金	850	850
1年内返済予定の長期借入金	485	426
リース債務	1,079	1,046
未払法人税等	554	133
賞与引当金	321	140
役員賞与引当金	72	
割賦利益繰延	364	357
その他	699	957
流動負債合計	15,635	14,112
固定負債		
長期借入金	266	216
役員退職慰労引当金	119	
その他の引当金	2 390	2 393
退職給付に係る負債	359	348
その他	204	337
固定負債合計	1,341	1,295
負債合計	16,977	15,408
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,181	1,181
資本剰余金	1,015	1,015
利益剰余金	13,389	13,540
自己株式	231	231
株主資本合計	15,355	15,506
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	938	799
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	156	125
その他の包括利益累計額合計	1,094	925
純資産合計	16,449	16,431
負債純資産合計	33,426	31,839

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	8,798	9,165
売上原価	7,341	7,530
差引売上総利益	1,457	1,634
割賦販売未実現利益戻入額	72	51
割賦販売未実現利益繰入額	32	44
売上総利益	1,497	1,641
販売費及び一般管理費	902	926
営業利益	595	715
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	13	14
持分法による投資利益	5	5
その他	47	23
営業外収益合計	71	50
営業外費用		
支払利息	11	8
為替差損		9
その他	0	
営業外費用合計	12	17
経常利益	654	748
特別利益		
固定資産売却益	0	
投資有価証券売却益		5
特別利益合計	0	5
特別損失		
固定資産除却損		0
出資金評価損		6
特別損失合計		7
税金等調整前四半期純利益	655	746
法人税、住民税及び事業税	119	141
法人税等調整額	113	110
法人税等合計	233	251
四半期純利益	421	494
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	421	494

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	421	494
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66	140
繰延ヘッジ損益	0	1
為替換算調整勘定	18	15
持分法適用会社に対する持分相当額	12	14
その他の包括利益合計	61	169
四半期包括利益	482	325
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	482	325
非支配株主に係る四半期包括利益		

## 【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、平成30年6月26日開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、在任期間に対応する退職慰労金を打ち切り支給することを決議いたしました。また、連結子会社3社も同様に役員退職慰労金制度を廃止いたしました。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」を取崩し、打ち切り支給に伴う未払額98百万円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

## 1 保証債務

(1) 当社が商品を販売したリース会社に対して、リース会社の有する債権について保証をしております。

前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
5百万円	4百万円

(2) 取引先に対する建設機械等の買取保証をしております。

前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
5百万円	5百万円

## 2 その他の引当金の内容

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
跡地修復引当金	390百万円	393百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
減価償却費	362百万円	347百万円
のれんの償却額	8百万円	4百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	241	38	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	343	54	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	3,085	5,599	113	8,798		8,798
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	13		16	16	
計	3,088	5,613	113	8,815	16	8,798
セグメント利益	330	355	13	699	104	595

(注) 1 セグメント利益の調整額 104百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	3,503	5,555	106	9,165		9,165
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	8		11	11	
計	3,506	5,564	106	9,177	11	9,165
セグメント利益	436	371	11	819	104	715

(注) 1 セグメント利益の調整額 104百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益	66円19銭	77円73銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	421	494
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	421	494
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,367	6,367

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8月 7日

株式会社南陽  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮 本 芳 樹 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社南陽の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社南陽及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。